

シールドマシン発進

兵庫県

施工は大豊JV 津門川地下貯留管整備

兵庫県が発注した「二級河川東川水系津門川地下貯留管他整備工事」のシールドマシン発進式が9日、西宮市神祇官町の発進基地内

左から浅田支店長、秋山センター長、三野所長



で開かれた。豪雨による市街地の浸水被害を低減するため、東川水系津門川の下部約1・7キロに地下貯留管（内径4・9メートル）を整備する。施工は大豊建設・ソネック・田村組JVが担当。工期は2019年10月9日から24年3月25日。式典には県や西宮市、施工者、地元住民など関係者らが出席し、無事完成を祈願した。津門川では1999年から13年に豪雨のため家屋の床

上浸水やアンダーパスの冠水が発生。地下貯留管が完成すれば、豪雨発生時に上流部の流入施設を通し、最大約3万4000立方メートル（25メートル×56杯に相当）の雨水を貯留できる。流域の治水安全度が格段に向上する。

地下貯留管の南端に当たる発進立坑（放流施設）は21年8月から22年5月末に掘削を実施。酒造りに必要な地下水「宮水」に配慮するため、圧縮空気で地下水を浸入させないニューマチック



掘進を控えるシールドマシン

クレーン工法を採用し、深さ41メートル（内径13メートル）まで掘り進めた。

神事は午前10時に始まり、兵庫県の秋山徹志阪神南泉民センター長、大豊建設の浅田潤一常務執行役員大阪支店長と三野章生JV現場所長が発進スイッチを押し、掘進作業の安全を祈願した。

式典の後、報道関係者に発進立坑内で掘進を控えた泥土圧シールドマシン（径約5・5メートル）を公開。同日午後には地元住民向けの現場見学会も開かれた。

シールドマシンは上流方向に北上しながら1日平均約7メートルで掘進する。12月に流入施設となる立坑（深さ21メートル）のある門戸荘3に到達する予定。地下貯留管は付帯工事や試験などを経て、27年度に供用開始する。総事業費は約96億円。

県は将来的に貯留管を2・1キロ南伸することで、大阪湾に雨水を流すことを想定している。

